

トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) Ohwi ex T.Koyama	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定されているうえ、湿地や水辺の環境が大幅に変化し、種の存続への圧迫に絶えずさらされている。	写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	1年草。叢生し、高さ15-25cm。花序は2-3回分岐し多数の小穂をつける。	
生態的特徴	低地の河川敷やため池、休耕田などの湿地にはえる。	
分布状況	本州(関東から中部)に分布する。岐阜県では県南中部に分布する。	
減少要因	生育地の埋め立て、ため池の改修。湿地植生の変化による乾燥化や他の植物からの被圧。	
保全対策	湿地の保護、保全や、生育環境維持活動。ため池の改修時には、池底の砂泥を再度用いるなど特に配慮を要する。	
特記事項		
参考文献		
		

文責:村瀬正成